

第14回 (昭和42年度) 風に関するシンポジウム〔プログラム〕

共催学会：地震学会・土木学会・日本海洋学会・日本気象学会・日本建築学会(本年度幹事)・日本航空学会・日本地理学会・日本農業気象学会・日本林学会
 期日：昭和42年12月8日(金) 9時30分～17時00分
 会場：東京都北区西ヶ原 2-1 農業技術研究所講堂(国電上中里駅—上野駅より北へ4つ目—下車、山側5分上り大通り右側すぐ)

プログラム：

- | | |
|--|---|
| 1. 昔の大風の勢力の変化に対する一考察
真鍋大覚 | 11. 運動角柱に作用する風圧の動的効果
石崎 澁雄
○許 昌九 |
| 2. 第2宮古島台風の暴風の特性について
○光田 寧 宮内賢二 吉住禎男 | 12. 吊橋補剛桁に作用する空気力に関する2, 3の考察
○小西一郎
白石成人 宇都宮英彦 辻 勝成 |
| 3. 第2宮古島台風による被害について
石崎 澁雄 桂 順治
○室田達郎 | 13. 三角山模形を用いた風洞実験
石田 一郎
○渡辺忠夫 |
| 4. 冬季北陸地方に卓越する南風について
中村和郎 | 14. 淡路島空港の地形模型風洞実験
石崎 澁雄
光田 寧 ○宮内賢二 |
| 5. エックマン層に関する一考察
石崎 澁雄 | 15. 境界層の拡散 (2)
○加藤真規子
坂上治郎 |
| 6. 3次元の重力波 (2)—気圧および風速分布について—
古川武彦 | 16. 海面に拡がる原油からの蒸気の拡散
坂上治郎 ○元良誠三 |
| 7. 水面上の風速分布と水面の粗さについて
赤川浩爾
○二宮佳夫 | 17. 近距離の拡散
坂上治郎 |
| 8. 水面附近における風の影響
箕原亮
田村 勇 | 18. 地形の影響を考慮した拡散の数値実験
日野 幹雄 |
| (昼食・休憩) | (休 憩) |
| 9. 変形する風向計の振動
○佐貫亦男
木村 茂 阿部 圭 林 弘明 | 特別講演 I. 最近の拡散実験について
坂上治郎
同 II. 構造物と風のシンポジウム(カナダ)に出席して
塩谷正雄 |
| 10. 風速変動の長周期成分について
光田 寧
○花房竜男 | |

自然放射能とエアロゾル月例会プログラム

日時：42年11月11日(土)(秋季大会終了翌日)10時より
 場所：東京理科大学理学部第一輪講室(1号館4階)
 講演：

- 中谷 茂(電試)：自然放射性 Aerosol の粒径分布の吟味 (1)
 中谷 茂(電試)：自然放射性 Aerosol の粒径分布の吟味 (2)
 朝来野国彦(東ア総研)：拡散法による放射性エアロゾルの粒径測定
 東理大関川研究室：大気中のエアロゾル粒子の荷電率の平衡について (1)
 東理大関川研究室：大気中のエアロゾル粒子の荷電率の平衡について (2)
 矢野直・朝来野国彦・前橋紀恵子(気研)：Rn²²² の Exhalation日変化について
 矢野直・朝来野国彦・前橋紀恵子(気研)：夜間静穏なときの接地層の Rn²²²および Rn²²⁰の壊変生成物の接地層における垂直分布
 阿部史朗・阿部道子・清水邦保(放医研)：大気浮遊じん中の Pb²¹⁰, Bi²¹⁰, Po²¹⁰ 濃度—(第1報)
 阿部史朗・阿部道子・清水邦保(放医研)：大気浮遊じん中の Pb²¹⁰, Bi²¹⁰, Po²¹⁰ 濃度—(第2報)
 村山信彦・志村英洋(気象庁)：地表大気の RaB/RaC 比の日々変動

村山信彦・藤本博(気象庁)：自然放射能で評価したフィルター捕集効率
 シンポジウム：

- (1) 大気イオンと放射性エアロゾルの関係：
 話題提供：中谷 茂(電試)
 (2) エアロゾルの力学
 “：阿部史朗(放医研)
 (3) 自然放射性核種の気象学的应用
 (a) Rn²²²または Rn²²⁰およびそれらの壊変生成物の気象学的应用 “：矢野 直(気研)
 (b) エアロゾルの降水洗滌
 “：村山信彦(気象庁)

気候変動シンポジウム

期日 11月18日(土)10～17時
 会場：京都府立総合資料館第1会議室
 京都市左京区下鴨半木町 Tel. 075-78-9101
 京都市バス京都駅八条口より(54)号、正面上り(4)号乗車約30分前萩町(資料館前)下車

講演題目

- 村上多喜夫(気研) 大気循環論
 高橋浩一郎(気研) 長期予報と気候変動論
 根山 芳晴(広島地気) 太平洋高気圧と気候変動
 堀江 正治(京大) 古生物学的ならびに地形学的にみた気候変化の証拠